



そすいさんぽ全コース概略図
 「そすいさんぽ」には、琵琶湖疏水を巡る3コースがあります。各コースに、琵琶湖からの距離を示す、約1キロごとのサインが設置されています。
 ※サインには、電柱やフェンスへの掲示も含まれます。



column 9 **かつての疏水分線**
 Branch Canal in the past



● そすいさんぽルート
 ● 河川等 ● 河川等(暗きよ)
 トイレ 桜スポット

column

7 **等高線に沿って流れている琵琶湖疏水**
 疏水分線は、鴨川や桂川など京都市内を流れる川とは違い、南から北に向かって流れており、一見すると標高の高い方に逆上っているように見えます。疏水のルートは実は、等高線に沿うように設計されており、疏水の水ができるだけ広い範囲に流れるよう、水路の勾配が緻密に計算されているのです。



8 **旧鐘紡京都工場**
 明治41(1908)年に操業を開始した鐘紡京都工場は、原料の洗浄などに疏水の水を利用していました。現在の左京区高野東開町辺りが、その工場跡に当たります。



9 **かつての疏水分線(紫明通)**
 琵琶湖疏水が完成した頃、疏水分線は小川頭(現在の北区紫野宮東町)までの約8.4kmでした。昭和10年の鴨川大水害後の河川改修で分断され、賀茂川以西の水路は廃止になり、現在は紫明通となっています。賀茂川で分断された疏水分線は平成の堀川再整備工事により、賀茂川の下を通り、紫明通の中央分離帯を流れています。





column

1 南禅寺界隈別荘群

南禅寺の塔頭跡地に、近代最高峰の作庭家七代目小川治兵衛(植治)の活躍もあり、疏水の水を利用した近代庭園群が形成されました。山縣有朋の別邸である無鄰菴や平安神宮の神苑などがあります。



2 水路閣

名刹・南禅寺の境内にかかるアーチ型の水路橋で、明治21(1888)年に完成しました。蹴上から若王子へ水路を通すに当たり、田邊朗郎が地形や景観を考慮して設計したものです。橋上からは疏水の流れを直に見ることができます(国史跡)。



3 扇ダム

第5トンネルと第6トンネルの間にある「扇ダム」。主にここから南禅寺界隈別荘の庭園群に引水され、防火用として水利用の申請を受けています。※一般の方は立入りできません。



4 旧若王子プール

琵琶湖疏水のユニークな活用方法としてプールがありました。昭和40年代までは、市内小学校にプールはなく、水泳の授業は、豊富な水量がある疏水を活用した若王子プール、南禅寺プール、夷川船溜などで行われていました。



5 真如堂の石灯籠

真如堂の元三大師堂の前にある「工学博士田邊朔郎君頌徳紀念」と刻まれた石灯籠です。疏水のおかげで水不足に困らなくなったお礼として、白川村(当時)の村長が奉納しました。



6 幻の工業都市計画

北垣国道知事は、疏水の水で水車を回して工業機械の動力に利用するため、鹿ヶ谷・哲学の道近辺に工業地帯の整備を考えました。しかし、整備工事には多額の経費が掛かり、また水力発電所の建設計画が持ち上がったため、水車による工業都市計画は実現しませんでした。

